

# 男性の育児休業取得について

## 育休パパ応援企業インタビュー

育児休業を取得した男性社員がいる企業を訪問し、ご本人と職場の上司の方に「男性の育休」についてお話を伺いました。



### 訪問した企業

## 福浜大一建設株式会社

- 福島県次世代育成支援企業
- いわき市女性活躍推進企業
- イクボス宣言企業



### 企業概要

- 事業内容/総合建設業 ● 設立/昭和36年3月30日
- 代表者/佐藤 毅 ● 従業員数/88人
- 所在地/いわき市小名浜字中原16-1 ● TEL/54-8111
- URL/http://www.fd-const.com/

## 男性の育児休業に対する会社としての取組み



総務部長 遠藤 順一さん

### ■積極的な取組みを始めたのはいつ頃からですか？

遠藤：若い社員が結婚して子どもができ、育児休暇に該当する社員が増えてきています。弊社は、平成28年にいわき市の女性活躍推進企業認証を取得させていただいておりまして、その頃から本気になって考えるようになりました。

### ■どのように進めていきましたか？

遠藤：部門長と何度も協議を行い、やっと平成28年4月に一人目の取得者が出て、土壌ができました。育児休業は、短期的に見ればコストでしかないのですが、それが例えば3年先、5年先、10年先を見たときに、育児休業を取得することによってどういうメリットがあるかということを説明しました。

現在も該当する社員が出ると、部門長に育児休業が取れる時期を調整してもらい、取得しています。現在では男性社員が育児休業を取得することは当たり前になっています。

### ■育休パパ小野さんの育休取得後にキラリと光る変わったことは？

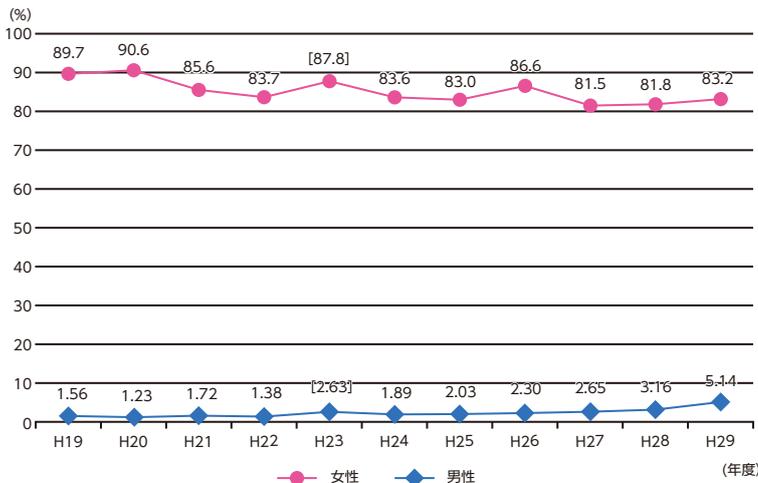
遠藤：少しでも早く帰って自分が子どもの面倒を見たりするなど、奥様を助けようと思うので、効率的に仕事をやるという意識になりますよね。そういうところがいいなと感じています。

### ■今後の展望や方針は？

遠藤：現在は、最低2週間ということで、各部門へ男性の育児休業取得をお願いしているところです。2020年度からは、国家公務員は男性の育児休業取得原則1ヶ月以上を促す制度が始まります。それに後れを取らないよう、少しでも長く取得できるような社内雰囲気づくりと業務改善、人員の配置などを考慮した体制づくりをしていきたいと考えています。

## 育児休業取得率の推移

男性の育児休業取得率は長期的には上昇傾向にあるものの、平成29年度の調査では5.14%にとどまっており、育児休業をはじめとする両立支援制度を利用する男性は少ない状況です。



注：平成23年度の[ ]内の割合は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果

## 育児休業取得率



出産者のうち、調査時点までに  
育児休業を開始した者  
(開始予定の申出をしている者を含む。)の数

調査前年度1年間(※)の出産者  
(男性の場合は配偶者が出産した者)の数

(※)平成23年度以降の調査においては、調査前々年10月1日から  
翌年9月30日までの1年間

資料出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」



## 育休インタビュー

### ■期間と取得のきっかけは？

小野：時期は遅くなってしまったのですが、1人目が1歳9ヶ月の時に17日間取得しました。きっかけは、会社や上司からの働きかけがあったことです。

### ■取得することに抵抗はありましたか？

小野：子どもが生まれたときは、現場を担当していたので、2週間も休むことに抵抗がありました。自分が休むことによって、部下に負担がかかるかなというためらいもありました。しかし、所属部門の後押しもあり、取得することができました。

### ■周囲の反応は？

小野：会社では、部門のみなさんに「全面的に協力するから安心して休め」と言っていただき、快諾してもらえました。また、復帰後も育児休業前と変わらずに仕事をすることができています。

妻は、実際に取得できるとは思わなかったと喜んでいました。そして、育児休業が終わるころには、2人で家事や育児が出来たことで、「心も身体も休めたよ」と言ってもらえました。その言葉を聞いて、妻が喜んでくれるなら、家事や育児にもっと積極的に参画していきたいと感じました。

### ■育児休業を取得して気づいたこと、変わったことは？

小野：会社も職場も育児休業を積極的に促し、協力的であり、育児休業に対して批判的な人がいないということも分かり、会社は、社員のことをとてもよく考えてくれているということに気づきました。

妻に対しては、専業で家事や育児をしてあげていることへの感謝の気持ちも高まり、自分も積極的に家事や育児に努めていきたいと感じました。ですので、早く家に帰るために早く仕事を終えようという意識が出てきました。

### ■最後に

小野：今回は、取得する時期が遅くなってしまいましたが、小旅行などにも行け、良い経験ができたと思っています。ですが、生後2ヶ月頃の大変な時期に育児休業を取得した方が、母親の負担軽減には効果が大きかったのかなとも思いました。

まだまだいわき市においては、男性の育児休業取得者が少ないと聞いています。育児休業をするタイミングは人それぞれだと思いますが、今後、男性の育児休業取得者が増えることを期待しております。



【育休パパ】営業部課長代理 小野 勝昭さん